



おめでとうございます  
**春の叙勲・褒章**

## 旭日双光章

柏村勝利さん  
(75歳・中村)



柏村さんは日本領（現米領）口夕島出身。昭和52年に本市で医院を開業し、約40年にわたり医療に従事。東日本大震災の時には相馬郡医師会長として診療や薬剤調達に尽力しました。現在は介護老人保健施設の施設長として地域の医療や福祉に尽力しています。（柏村さんのコメント）地道な活動を評価してもらい、ありがたい気持ちです。

## 瑞宝単光章

蓬田綾子さん  
(61歳・南飯渕)



蓬田さんは相馬市出身。昭和54年に看護師となり、約40年にわたり看護師業務に従事。宮城県や青森県などの病院で看護部長、総師長を歴任し、須賀川市の国立病院機構福島病院で看護部長となり、後進の育成などに尽力されました。（蓬田さんのコメント）叙勲をいただいたことに驚いています。今後は今まで地域の人に助けられてきたので、恩返しをしていきたいです。

## 藍綬褒章

東頭成さん  
(75歳・馬場野)



東頭さんは北海道苫小牧出身。平成4年に保護司となり、北海道や青森県、本県で活動し、これまで80人以上の社会復帰を支えてきました。現在は相馬地区更生保護サポーターセンターで、更生活動などに尽力されています。（東頭さんのコメント）対象者との関わりを大切に活動してきました。今後も再犯防止などに携わっていききたいです。

## 寄付ありがとう 福祉事業への 支援

門馬重忠さん（中村）は5月28日、市役所を訪れ、立谷市長へ寄付金を手渡しました。門馬さんは、平成19年9月にも市へ寄付を行っており、今回は福祉事業の充実のため寄付を行いました。

寄付金を受け取った立谷市長は「寄付をいただきありがとうございます。いただいた

## 少年柔道形競技会

## スポーツ大会出場報告



寄付金は大切にに使わせていただきます」と述べました。寄付金は、福祉事業基金に積み立てられ、子育て支援などに活用していきます。



スポーツ大会出場報告は6月10日、市役所で行われ、相馬市柔道教室の志賀琥士郎選手（八幡小6年）が訪れました。志賀選手は第9回日整全国少年柔道形競技会予選福島県大会で優勝し、7月に仙台市で開かれる東北ブロック予選会に出場します。堀川利夫教育長の激励の後、志賀選手は「しっかりと技を磨いて、全国大会につなげていきたいです」と大会への抱負を述べました。

# 相馬民謡の後継者育成

## 子ども民謡教室開校式

市内の小、中学生を対象とした子ども民謡教室の開校式は6月7日、市民会館の和室で開催され、12人の児童、生徒が参加しました。

教室は、相馬民謡の継承を目的に、相馬民謡同好会の協力を得て開かれ、市教育委員会の主催。

開校3年目を迎える今年の生徒数は、1年目2人、2年

目3人、3年目8人の計13人。

堀川利夫教育長がいさつし、同教室の講師が紹介され、講師による相馬流れ山や相馬盆唄などの相馬民謡7曲が披露されました。

教室は、毎月第一、第三金曜日に開かれ、各地で開催される民謡大会を目標に、児童たちは練習に励みます。



## 今季初水揚げのホッキ貝 相馬双葉漁協



今季初の相馬双葉漁業協同組合によるホッキ貝の試験操業は6月3日から開始され、原釜や磯部などの漁港から漁船が出港しました。

早朝5時に出港した漁船が磯部水産加工施設へ運び入れたホッキ貝は約1トン。

水揚げされたホッキ貝に放射性物質は検出されず、水産加工施設や市内のスーパーなどで販売されました。

漁期は来年1月末まで、週2回程度操業される予定です。

## 日ごろの訓練の成果を競う

### 消防団消防操法競技大会

市消防団消防操法競技大会は6月2日、長友グラウンドで行われ、各分団から選ばれた選手たちが小型ポンプなど消防機器操作の正確さや速さを競い合いました。

大会には、小型ポンプの部に8チーム、ポンプ車の部に1チームが出場。

選手たちは指揮者の号令に従いながら、消防操法をきびきびとした動作で行い、日ごろの訓練の成果を発揮しました。



## ホシガレイの稚魚初放流

### 県水産資源研究所

県水産資源研究所は6月10日、松川浦大橋付近の沿岸で、同研究所で初となるホシガレイの稚魚の放流を行いました。放流されたホシガレイの稚魚は、同研究所が相馬共同火力発電所の温排水を利用し、約6〜8センチメートルまで飼育したもので、約11万匹が放流されました。

ホシガレイの稚魚は、約2年で30センチメートル程に成長し、水揚げが期待されます。



## 新緑の風を感じる 潮風トレイルと 市民歩け歩け大会

第8回みちのく潮風トレイルウオーキングWith第39回市民歩け歩け大会は6月1日、馬陵公園からスタートし、県内外から参加した約180人がゴールの千客万来館までウオーキングを楽しみました。ウオーキングコースは、相馬インターチェンジ近辺や国指定重要文化財の涼ヶ岡八幡神社などを経由しながら、千客万来館までの約13キロメートル。

澄んだ青空の下、参加者は相馬福島道路工事の進ちよく状況、相馬の緑豊かな自然や文化を目にしながらコースを進みました。

ゴール後、ノリ汁が振る舞われ、参加者は歩いてきたコースを振り返りながら舌鼓を打っていました。



## 五穀豊穡祈る 相馬宇多郷の神楽舞



雷神社（坪田）の例大祭は6月16日に開かれ、市内7地区の敬神会などが神楽を奉納しました。歴代の中村藩主は、藩内の

各郷に豊作や降雨をもたらす雷神社を祭って、社前で五穀豊穡を祈り神楽を奉納するよう奨励していたといわれています。

宇多郷の郷社であった雷神社の神楽奉納は、旧中村藩で踊られた姿を伝承していることから、平成4年に県の重要無形民俗文化財に指定されています。

神楽を奉納したのは、台瀧神社、涼ヶ岡八幡神社、岩子、原釜、日下石、松川の敬神会や保存会など。神社を訪れた人たちは、次

々に奉納される神楽に見入っていました。



## 親子でにぎわった スマイル縁日



スマイル縁日は6月9日、相馬愛育園で開かれ122人の親子らが参加しました。

イベントは、ボランティアグループの相馬スマイルクラブの主催。

会場には、お金に見立てた「スマイル券」を使った昔の駄菓子屋の買い物や型抜き、くじ引きなど、8つのコーナーが設けられました。

くじ引きで当たりが出るとう会場に歓声があがり、大盛り上がりでした。

また、型抜きのコーナーでは、子どもたちに交ざって真剣な顔でチャレンジするお父さん、お母さんの姿もあり、親子で一緒に楽しいひとときを過ごしました。

## 子どもたちの成長をサポート



心の相談会は5月22日、LVMH子どもアート・メゾンで行われ、市内小、中学校の保護者らが参加しました。子どもの心のケアを目的に活動しているNPO法人相馬フォロアチームの主催。相馬フォロアチームの守屋スクールカウンセラーが、子どもたちは、自身が成長するにつれて変わっていく人間

## 心の相談会

関係や学年に応じた学習能力の習得など、さまざまな状況に適応しなければならぬことや、その適応につまずいてしまったときに保護者はどのようにサポートしていくかなどを説明しました。参加者は、守屋スクールカウンセラーの説明をメモを取りながら熱心に聞いていました。

## 親子の楽しい時間 パネルシアターカフェ

パネルシアターカフェは5月25日、LVMH子どもアート・メゾンで行われ、16人の親子らが参加しました。

お母さん方の有志で立ち上げられ、主に子ども向けのイベントを企画している相馬市ママバトン会の主催。

はなさかじいさんなどを題材としたパネルシアターが行われ、子どもたちはテンポよく切り替わる場面に歓声を上げながら楽しみました。

パネルシアターの後には、参加者とスタッフみんなでお茶を飲みながら、子どもたちは会話を楽しみ、保護者らは子育ての情報交換を行いました。

●パネルシアターとは、布を張ったパネルなどにイラストを貼ったりはがしたりしながらお話しをすることです。



## 華麗な舞を披露 トランポリン大会



第39回トランポリン競技選手権大会は6月1日、スポーツアリーナさうまで開催され、県内のトランポリンクラブに所属している選手ら46人が参加しました。

競技は個人競技、シンクロ、ナイズド競技、団体競技、それぞれ男女別に競技技術の難度基準によりクラス分けされ行われました。

出場した選手らは、練習の成果を発揮しようと真剣な表情で演技し、チームメイトが演技している時は、精一杯の声援を送っていました。

## 西部子ども公民館 交通教室で 世代間交流

西部子ども公民館の交通教室は5月20日、当公民館で開催され、子どもや地域の方々約40人が参加しました。

教室は、大野駐在所勤務の根本貴弘巡査長を講師に招き、歩行時や自転車の運転時に普段気を付けることなどの講話が行われました。

また、具体的な交通事故の事象をクイズ形式で確認するなど、参加者は交通ルールに理解を深めました。交通教室は、当公民館の年間行事の一つとして計画され、毎年行われています。

